

# 日本史

**1****解答**

問1. ① 問2. ③ 問3. ② 問4. ③ 問5. ②  
問6. ① 問7. ③ 問8. ④ 問9. ④ 問10. ①  
問11. ② 問12. ① 問13. ② 問14. ③ 問15. ④

## ◀ 解 説 ▶

### 《古代・中世の政治・文化》

問3. 2. 誤文。高松塚古墳壁画には、四神や男女群像が描かれている。樹下美人図の構図で描かれた絵画としては、『正倉院鳥毛立女屏風』がある。

3. 誤文。風土記の編纂は大学寮の博士らに命じられたのではなく、国ごとに提出が命じられた。

問4. ③正解。政権を主導していた人物を意識して整理したい。藤原不比等→長屋王→藤原四子→橘諸兄→藤原仲麻呂→道鏡→藤原永手・百川ら、という順である。Ⅱ. 長屋王の変のあと、光明子が皇后に立てられた時期に政権を主導していたのは藤原四子。→Ⅰ. 吉備真備・玄昉が中国から帰国して聖武天皇に重く用いられていた時期に政権を主導していたのは橘諸兄。→Ⅲ. 恵美押勝が乱を起こした時期に政権を主導していたのは道鏡。  
問6. X. 正文。史料文中に「念仏の一門によりて、聊か経論の要文を集む」とある。ここから、念仏の教えに限って経論の中の重要な部分を集めたことがわかる。

Y. 正文。史料文中の「一には厭離穢土、二には欣求浄土、三には極楽の証拠」という部分から、現世を厭い離れること、浄土を願い求めること、極楽浄土を尊ぶべき証についてまず述べていることがわかる。また、「四には正修念仏、五には助念の方法」という部分から、正しい念仏の仕方、念仏を助ける方法について述べていることがわかる。

問8. ④正解。Ⅱ. 三善清行が「意見封事十二箇条」を醍醐天皇に提出したのは10世紀前半(914年)。→Ⅲ. 紫式部が『源氏物語』を著したのは11世紀初め。→Ⅰ. 藤原頼通が宇治に平等院鳳凰堂を建立したのは11世紀半ば(1053年に落成)。

問10. ①正文。

②誤文。法勝寺は白河天皇の御願寺である。

③誤文。後白河上皇の近臣間の対立から起こった事件は、平治の乱である。

④誤文。平清盛は太政大臣に就任したが、関白には就任していない。

問11. X. 正文。史料文中に「頼朝勲功は昔よりたぐひなき程なれど」と、源頼朝の勲功は拔群だと、高く評価している。

Y. 誤文。史料文中に「一往のいはればかりにて追討せられんは、上の御咎とや申すべき」とあり、陪臣である北条義時が力を持ったからといって、これを追討するのは後鳥羽上皇に落ち度がある、という内容である。

問13. ②正解。東山山荘内にある慈照寺東求堂同仁斎であり、同仁斎は足利義政の書斎であった。①は北山文化の時期の鹿苑寺金閣、③は北山文化の時期の「瓢鮎図」、④は桃山文化の時期の『智積院襖絵』（「楓図」）である。

出典追記：①鹿苑寺蔵

②提供 慈照寺

著作権の都合により写真①は類似のものと差し替えています。

問14. X. 誤文。史料文中に「尊氏將軍の七代目の將軍義政公の天下の成敗を有道の管領に任せず、ただ御台所…」とあり、足利義政が政務を管領に任せずに日野富子らに任せたことが、応仁の乱が起きた一因としている。

Y. 正文。史料文中の「今まで最眞に募りて、論人に申し与ふべき所領をも、また賄賂に耽る訴人に理を付け、又奉行所より本主安堵を給はれば、御台所より恩賞に行はる」の内容と合致する。

問15. ④正解。Ⅱ. 伊勢宗瑞（北条早雲）が伊豆の堀越公方を滅ぼしたのは15世紀後半。→Ⅲ. 京都の日蓮宗の信者らが法華一揆を結んで一向一揆と対決したのは16世紀前半（1532年）。→Ⅰ. 中国地方の大内氏が滅ぼされ、勘合貿易が途絶えたのは16世紀半ば（1551年）。

2

解答

問1. ④ 問2. ② 問3. ④ 問4. ② 問5. ③

問6. ③ 問7. ① 問8. ① 問9. ② 問10. ④

◀解 説▶

《江戸時代の学問と政治》

問3. ④正解。Ⅲ. 2代將軍徳川秀忠が發布した武家諸法度元和令では、文武の奨励、居城の修補・新築の禁などが規定された。→Ⅱ. 3代將軍徳

川家光が発布した武家諸法度寛永令では、参勤交代制、500石積以上の大船の建造禁止などが追加された。→I. 5代将軍徳川綱吉が発布した武家諸法度天和令では、忠孝・礼儀を前面に打ち出し、末期養子の禁緩和などが追加された。

問4. X. 正文。

Y. 誤文。5代将軍徳川綱吉の死後も服忌は行われ、人々の生活様式に影響を与えた。徳川綱吉の死後に廃止されたものとしては生類憐みの令がある。

問5. ③正解。田中丘隅は享保の改革で登用され、村内事情や民政に関する意見を『民間省要』にまとめ、8代将軍徳川吉宗に献上した。

問7. ①正解。尾形光琳の『紅白梅図屏風』であり元禄文化を代表する絵画である。②は葛飾北斎の『富嶽三十六景』（「凱風快晴」）であり化政文化の時期の作品、③は狩野永徳の『唐獅子図屏風』であり桃山文化の時期の作品、④は雪舟の『四季山水図巻』であり室町文化（東山文化）の時期の作品である。

問8. ①正解。田沼時代に米相場が高騰したこと、浅間山の噴火により江戸に火山灰が降り、天明の飢饉が起こったことを風刺している。

②誤り。享保の改革への風刺である。米100石の公定価格が四十九両であったことから、上げ米の米を金納にすると四十九両（始終苦勞）と批判している。

③誤り。寛政の改革への風刺である。松平定信が文武を奨励したことを、蚊の羽音にたとえて、うるさいと批判している。

④誤り。天保の改革への風刺である。白河藩主であった松平定信の寛政の改革よりも浜松藩主である水野忠邦の天保の改革の方が厳しいと批判している。

問9. ②正文。尊号一件と呼ばれる事件であり、光格天皇が実父の閑院宮典仁親王に太上天皇の尊号を贈ろうとしたが、松平定信の反対により実現しなかった。

①誤文。後水尾天皇を擁立し即位させたのは初代将軍徳川家康である。

③誤文。幕末に老中安藤信正が公武合体策を推進していたことで、孝明天皇の妹和宮と9代将軍徳川家茂との結婚が実現した。

④誤文。幕府に相談のない紫衣勅許を無効とした事件（紫衣事件）が起

こったのは1627年であり、徳川秀忠が大御所として3代将軍徳川家光を見守っていた時期である。翌々年、これに抗議した大徳寺の沢庵が流罪にされ、この事件を契機に後水尾天皇が譲位した。

**3**

**解答**

問1. ① 問2. ② 問3. ② 問4. ④ 問5. ①  
問6. ③ 問7. ④ 問8. ④ 問9. ④ 問10. ③  
問11. ① 問12. ① 問13. ② 問14. ② 問15. ③

◀ 解 説 ▶

《近代の美術》

問2. ② 正文。

① 誤文。大阪紡績社は、政府ではなく、渋沢栄一らによって設立された。

③ 誤文。三菱会社は1885年に半官半民の共同運輸会社と合併して、日本郵船会社になった。

④ 誤文。鉄道は、1872年に新橋・横浜間で最初に開通した。

問3. X. 正文。

Y. 誤文。工部美術学校は1883年に廃校となっている。第二次世界大戦後に東京芸術大学美術学部となったのは、東京美術学校である。

問5. 2. 誤文。元老院が起草した「日本国憲法」は、岩倉具視らの反対により、不採択となっている。

4. 誤文。大日本帝国憲法は、特定の宗教を例外とすることなく信教の自由を認めている。

問6. X. 誤文。立志社は国会開設などを求める建白を1877年に提出したが、すぐに却下された。1890年の国会開設を約束する詔勅（国会開設の勅諭）は、明治十四年の政変の際に出された。

Y. 正文。

問9. 2. 正文。黒田清輝は印象派（外光派）を日本に紹介し、清新で明るい画風を確立した。

4. 正しい。黒田清輝の代表作「湖畔」である。

1. 誤文。黒田清輝は工部美術学校出身ではない。工部美術学校出身の画家としては浅井忠が著名である。

3. 誤り。藤島武二の「天平の面影」である。

問11. X. 正文。高村光太郎は父である高村光雲の影響を受け、彫刻家と

して欧米で学び、ロダンの影響を受けている。

Y. 正文。高村光太郎は詩人として理想主義的口語自由詩を発表した。『道程』と『智恵子抄』が代表詩集である。

問13. ②正文。杉山元治郎は賀川豊彦らとともに、1922年に日本農民組合を結成した。

①誤文。田中正造が、足尾銅山の鉱毒が渡良瀬川流域の農漁業に深刻な被害をもたらしているとして、天皇に直訴を試みたのは1901年である。

③誤文。平塚らいてう（雷鳥）らが青鞥社を結成したのは1911年である。

④誤文。山川菊栄らが結成した団体は赤瀾会である。

問14. ②正文。

①誤文。満州事変は1931年の柳条湖事件を機に始まった。張作霖爆殺事件が起こったのは1928年である。

③誤文。首相官邸を襲われ殺害されたのは犬養毅首相である。また、犬養毅首相を殺害したのは皇道派青年将校ではなく、海軍青年将校らである。

④誤文。満州事変は、日本軍と国民政府間に結ばれた塘沽停戦協定により停戦となった。

問15. X. 誤文。シンガポールを攻撃した日本軍の山下奉文司令官が、イギリス軍に降伏を迫った場面が描かれている。国民を鼓舞するために描かれた戦争記録画である。

Y. 正文。

4

解答

問1. ② 問2. ① 問3. ③ 問4. ① 問5. ③  
問6. ② 問7. ④ 問8. ② 問9. ③ 問10. ④

◀ 解 説 ▶

《戦後日本の政治・経済》

問2. X・Y. 正文。奄美群島・琉球諸島を含む南西諸島と小笠原諸島はアメリカ軍が占領し、直接軍政がしかれた。1951年のサンフランシスコ平和条約調印後も南西諸島と小笠原諸島はアメリカの施政権下に置かれ、奄美群島が日本に返還されたのは1953年、小笠原諸島が日本に返還されたのは1968年である。

問3. X. 誤文。持株会社整理委員会は、指定された持株会社だけでなく、財閥家族の所有する株式などの譲渡も受けた。

Y. 正文。譲渡を受けた株式を一般に売り出すなどして、株式所有による財閥の傘下企業支配の一掃をめざした動きを財閥解体と呼ぶ。

問4. ①正文。

②誤文。独占禁止法では持株会社を禁止した。

③誤文。過度経済力集中排除法は、独占企業の分割を目指した法である。

④誤文。過度経済力集中排除法の指定を受けた企業は325社である。その後の占領政策の変化により、実際に分割されたのは11社だけであった。

問5. ③正文。不在地主の全貸付地を国が強制的に買い上げて、小作人に優先的に安く売り渡した。

①誤文。小作料は金納とされた。

②誤文。農地委員会は、地主3，自作農2，小作農5の割合で選ばれた。

④誤文。在村地主の小作地所有について、都府県は1町歩、北海道は4町歩に制限された。

問8. X. 正文。

Y. 誤文。直接税中心主義が採用され、特に個人への所得税が重視された。

問9. X. 誤文。池田勇人内閣は岸信介内閣にかわって誕生した。

Y. 正文。

# 世界史

1

**解答**

- 問1. ② 問2. ③ 問3. ③ 問4. ① 問5. ①  
 問6. ④ 問7. ③ 問8. ② 問9. ④ 問10. ③  
 問11. ③ 問12. ④ 問13. ② 問14. ④ 問15. ③ 問16. ④  
 問17. ② 問18. ① 問19. ① 問20. ②

## ◀ 解 説 ▶

### 《難民をめぐる世界史》

問2. ③誤文。ユダヤ人は、シオニズム運動やイギリスが発したバルフォア宣言に基づきパレスチナへ移住してきた。

問3. 不戦条約は1928年に締結された。アのバルカン同盟は1912年に結成された。イのバリ講和会議は1919年に開催された。ウの世界恐慌の発生は1929年のことである。したがって、正答は③となる。

問4. ②誤文。ネルチンスク条約は、乾隆帝ではなく康熙帝によって結ばれた。

③誤文。中印国境紛争のきっかけはダライ=ラマ14世のインド亡命である。

④誤文。イタリアはユーゴスラヴィア領のフィウメを併合した。

問7. ③誤文。アフガニスタンは第二次アフガン戦争でイギリスの保護国となっていたが、第三次アフガン戦争の結果独立した。

問8. ①誤文。イタリアはアドワの戦いでエチオピアに敗れた。

③誤文。フツ人によるツチ人の大量虐殺はルワンダで起きた。

④誤文。1970年代のエチオピアでは、クーデタの結果、ハイレ=セラシエは廃位された。

問9. ④誤文。ドイツはフランスのモロッコ支配に対して、二度にわたりモロッコ事件を起こした。

問10. ①誤文。クメール王国は現在のカンボジアに成立した王国である。

②誤文。1526年に成立したムガル朝はインドのイスラーム王朝である。

④誤文。アウン=サンは、ミャンマーがイギリスから独立を達成する前に政敵によって暗殺された。

問11. ①誤文。ボトシ銀山は現在のボリビアの銀山。

②誤文。メキシコではイダルゴを指導者とする反スペイン蜂起があった。

④誤文。フォークランド紛争はアルゼンチンとイギリスの戦争である。

問12. ④誤文。ガーナはエンクルマの指導のもとで独立を果たした。

問15. ア. 誤文。マゼランは、西インド諸島に到着・経由せずに大西洋を南下し、南米大陸の南端に向かった。

イ. 正文。

問16. ④誤文。フランスは、フレンチ=インディアン戦争で北アメリカにおけるすべての領土を失った。

問17. ①誤文。アステカ王国はコルテスによって滅ぼされた。

③誤文。ディアス政権は独裁政権。ディアス政権打倒の動きから始まる民主主義革命をメキシコ革命と呼ぶ。

④誤文。アメリカ=メキシコ戦争に敗北したメキシコは、カリフォルニア・ニューメキシコをアメリカに割譲した。

問19. ①誤文。クリミア戦争では、ロシアがギリシア正教徒の保護を口実にオスマン帝国と開戦した。

問20. ①誤文。マーストリヒト条約締結により、EC は発展的に解消されて EU となった。

③誤文。EU 圏内への移民は、北アフリカ・中東からが中心であり、中南米からの移民は急増してはいない。

④誤文。イギリスでは、EU からの離脱を問う国民投票が2010年代から行われ、離脱賛成派が過半数を獲得した。

**2**

**解答**

問1. ② 問2. ① 問3. ③ 問4. ③ 問5. ①

問6. ② 問7. ③ 問8. ③ 問9. ④ 問10. ②

問11. ② 問12. ② 問13. ③ 問14. ② 問15. ①

### ◀ 解 説 ▶

#### 《イベリア半島の前近代史》

問3. この絵画作品はスペイン宮廷画家ゴヤの「1808年5月3日」である。

問4. ③誤文。コロンブスはスペインのイサベル女王の支援を受けて航海に出た。

問5. ア. 正文。スペイン王フェリペ5世はフランス王ルイ14世の孫である。



イ. 正文。

問8. ア. 誤文。オットー1世はザクセン家出身で、諸侯の選挙で東フランク王に選出された。

イ. 正文。

問9. ④のホラズム=シャー朝は、アム川下流域（現ウズベキスタンの一部）のホラズム地方からおこった。セルジューク朝から独立した後に、現在のイラン・アフガニスタンに領域を広げた。イスラーム王朝ではあるが、イベリア半島に進出することはなかった。

問10. ア. 正文。

イ. 誤文。ローマ帝国内のユダヤ総督であったポンテオ=ピラトは、民衆の強い声に押されてイエス=キリストを十字架刑に処した。パウロはペテロとともにネロ帝の迫害により殉教した。

問11. ②のサレルノ大学は、医学教育で有名・重要であった。

問12. ①誤文。都市国家ローマは、エトルリア人の王を追放して共和政を開始した。

③誤文。オクタヴィアヌスは、アクティウムの海戦でプトレマイオス朝・アントニウスの連合軍を破った。

④誤文。カラカラ帝はローマ帝国内の全自由民にローマ市民権を与えた。

問13. ③誤文。ランゴバルド人は、イタリア半島北部にランゴバルド王国を建国した。

問14. ア. 正文。

イ. 誤文。偶像崇拜の禁止はユダヤ教に始まり、キリスト教・イスラーム教に引き継がれた。多神教徒の古代ギリシア人は、神殿にたくさんの神々の彫刻（偶像）を残した。

問15. ①の聖職者ラス=カサスは、『インディアスの破壊についての簡潔な報告』を著して先住民への虐待を非難した。

**3**

**解答**

問1. ① 問2. ④ 問3. ② 問4. ③ 問5. ②  
問6. ① 問7. ④ 問8. ③ 問9. ① 問10. ③  
問11. ② 問12. ④ 問13. ② 問14. ④ 問15. ③

## ◀ 解 説 ▶

## 《イスラーム世界の日本人像》

問1. ①の『集史』は、イル=ハン国のガザン=ハンの命で宰相ラシード=アッディーンが編纂した歴史書。

問3. ②誤文。第1回選挙法改正は1832年のこと。ヴィクトリア女王の即位はそれよりも後の1837年。またこの改正では、産業資本家にはのみ選挙権が与えられた。

問4. ア. 誤文。ヒジュラ（聖遷）はムハンマドらのグループのメッカからメディナへの移住・避難を意味する言葉。

イ. 正文。

問5. ア. 正文。

イ. 誤文。モンゴル帝国の駅伝制はジャムチと呼ばれた。クリルタイは部族長会議を意味する。

問6. ②誤文。シーア派の王朝としてエジプトを征服し、カイロを造営したのはファーティマ朝。アッバース朝はスンナ派の王朝。

③誤文。アッバース朝においては、アラブ人ムスリムと異民族の改宗者（マワーリー）は、税制上、対等に扱われた。

④誤文。スンナ派を復興し聖地イエルサレムを十字軍から奪回したのは、アイユーブ朝のサラディンである。

問8. ①誤文。興中会は1894年にハワイで結成された。

②誤文。孫文らは三民主義とともに四大綱領を掲げ、清朝の打倒を主張した。

④誤文。孫文は「連ソ・容共・扶助工農」を掲げてソ連との連帯を打ち出し、第一次国共合作を実現した。

問10. ア. 誤文。カーリミー商人は、アイユーブ朝などのイスラーム王朝の保護を受けたムスリムの商人団である。

イ. 正文。

問12. ④誤文。スレイマン1世は第一次ウィーン包囲を行った。

問13. ②のスワヒリ語は、東アフリカのバントゥー語とムスリム商人のアラビア語が融合して生まれた言語である。

問14. ④誤文。フィリピンはポルトガルではなくスペインの植民地だった。

問15. ③朝鮮は対馬の宗氏を通して江戸幕府と外交関係を結んでいた。

# 数学

◀ 経済・経営・人間科・建築（都市生活学系 [文系型]）学部 ▶

1

**解答**

(1) (a)  $3 < x < 4$  (2) (b)  $-7$  (3) (c)  $-3$  (4) (d)  $\frac{15}{64}$

◀ 解 説 ▶

《小問 4 問》

(1) 真数条件により

$$x^2 - x - 6 > 0 \quad \text{かつ} \quad 2x - 2 > 0$$

$$(x-3)(x+2) > 0 \quad \text{より} \quad x < -2, \quad 3 < x$$

$$2x - 2 > 0 \quad \text{より} \quad x > 1$$

$$\text{よって, 真数条件は} \quad x > 3 \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

この真数条件のもとで与えられた不等式は, 底  $10 > 1$  より

$$x^2 - x - 6 < 2x - 2$$

$$\text{すなわち} \quad x^2 - 3x - 4 < 0$$

$$(x-4)(x+1) < 0 \quad \text{より} \quad -1 < x < 4 \quad \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{より, 解は} \quad 3 < x < 4 \quad \rightarrow (a)$$

(2) (i)  $-5 \leq x \leq -2$  のとき

$$f(x) = -(x+2) - (-x) - (-x+2) = x-4$$

よって,  $-5 \leq x \leq -2$  において,  $f(x)$  の最大値は  $-6$ , 最小値は  $-9$ 。

(ii)  $-2 \leq x \leq 0$  のとき

$$f(x) = (x+2) - (-x) - (-x+2) = 3x$$

よって,  $-2 \leq x \leq 0$  において,  $f(x)$  の最大値は  $0$ , 最小値は  $-6$ 。

(iii)  $0 \leq x \leq 2$  のとき

$$f(x) = (x+2) - x - (-x+2) = x$$

よって,  $0 \leq x \leq 2$  において,  $f(x)$  の最大値は  $2$ , 最小値は  $0$ 。

(iv)  $2 \leq x \leq 5$  のとき

$$f(x) = (x+2) - x - (x-2) = -x+4$$

よって、 $2 \leq x \leq 5$ において、 $f(x)$ の最大値は2、最小値は-1。

(i)~(iv)により、 $-5 \leq x \leq 5$ における最大値は2、最小値は-9であるから、  
最大値と最小値の和は-7である。→(b)

(3) 与えられた方程式を整理すると

$$(x^2+kx+2)+(x^2+x+2k)i=0$$

$x, k$ が実数であるならば

$$x^2+kx+2=0 \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

かつ

$$x^2+x+2k=0 \quad \cdots \cdots \textcircled{2}$$

①, ②を辺々減じて

$$(k-1)x+2-2k=0$$

$$(k-1)(x-2)=0$$

$$k=1 \quad \text{または} \quad x=2$$

$k=1$ のとき、①, ②はともに

$$x^2+x+2=0$$

$$\text{これを解くと} \quad x = \frac{-1 \pm \sqrt{7}i}{2} \quad (\text{実数解ではない})$$

よって、 $k=1$ は不適。

$x=2$ のとき、①に代入して整理すると $k=-3$ となり、②にも適する。

したがって、求める実数 $k$ の値は-3である。→(c)

(4) 偶数の目が $k$ 回出るとすると、奇数の目は $(6-k)$ 回出るので、6回  
投げたあとの点Pの座標は

$$1 \cdot k + (-1) \cdot (6-k) = 2k-6$$

よって、点Pの座標が2となるのは、 $k=4$ 、すなわち、偶数の目が4回、  
奇数の目が2回出るときである。

したがって、求める確率は

$${}_6C_4 \left( \frac{3}{6} \right)^4 \left( 1 - \frac{3}{6} \right)^2 = \frac{15}{2^6} = \frac{15}{64} \quad \rightarrow (d)$$

**2**

**解答** (1) 余弦定理により

$$BC^2 = 6^2 + (2\sqrt{2})^2 - 2 \cdot 6 \cdot 2\sqrt{2} \cdot \left( -\frac{1}{2\sqrt{2}} \right) = 56$$

$BC > 0$  であるから  $BC = 2\sqrt{14}$  ……(答)

(2)  $0^\circ < \angle BAC < 180^\circ$  より  $\sin \angle BAC > 0$   
よって

$$\sin \angle BAC = \sqrt{1 - \left(-\frac{1}{2\sqrt{2}}\right)^2} = \sqrt{\frac{7}{8}} = \frac{\sqrt{14}}{4} \quad \dots\dots(\text{答})$$

(3) 線分  $BD$  は  $\triangle ABC$  の外接円の直径である。  
よって、正弦定理により外接円の半径を  $R$  と  
して

$$\begin{aligned} 2R &= \frac{BC}{\sin \angle BAC} = 2\sqrt{14} \div \frac{\sqrt{14}}{4} \\ &= 8 \end{aligned}$$

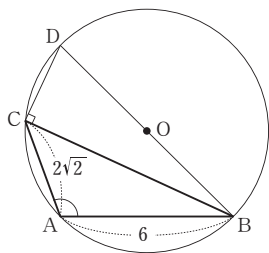
よって  $BD = 8$  ……(答)

また、 $BD$  が直径であるから、 $\triangle BCD$  において  $\angle BCD = 90^\circ$  である。

よって  $CD = \sqrt{8^2 - (2\sqrt{14})^2} = 2\sqrt{2}$

ゆえに、 $\triangle BCD$  の面積は

$$\frac{1}{2} \cdot BC \cdot CD = \frac{1}{2} \cdot 2\sqrt{14} \cdot 2\sqrt{2} = 4\sqrt{7} \quad \dots\dots(\text{答})$$



### ◀ 解 説 ▶

#### 《正弦定理・余弦定理の利用》

三角形とその外接円に関する典型的な問題である。与えられた条件に対し、正弦定理、余弦定理、三角比の性質などの公式を的確に利用できるかが問われている。

**3**

**解答**

(1)  $C_1$  について、 $y' = 3x$  であるから、 $x = p$  における接線の方程式は

$$y = 3p(x - p) + \frac{3}{2}p^2$$

$$\therefore y = 3px - \frac{3}{2}p^2 \quad \dots\dots(\text{答})$$

(2)  $C_2$  について、 $y' = 3x - 6$  であるから、 $x = q$  における接線の方程式は

$$y = (3q - 6)(x - q) + \frac{3}{2}q^2 - 6q + k$$

$$= (3q - 6)x - \frac{3}{2}q^2 + k \quad \dots\dots(\text{答})$$

(3) (1), (2)の方程式が同じ直線の方程式であるから

$$3p=3q-6 \quad \cdots\cdots\textcircled{1}$$

$$-\frac{3}{2}p^2=-\frac{3}{2}q^2+k \quad \cdots\cdots\textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}より \quad q=p+2 \quad \cdots\cdots\textcircled{3}$$

③を②に代入して整理すると

$$-\frac{3}{2}p^2=-\frac{3}{2}(p+2)^2+k$$

$$より \quad p=\frac{k}{6}-1 \quad \cdots\cdots(\text{答})$$

③に  $p=\frac{k}{6}-1$  を代入して整理すると

$$q=\frac{k}{6}+1 \quad \cdots\cdots(\text{答})$$

(4)  $C_1$  と  $C_2$  の交点の  $x$  座標を求めると

$$\frac{3}{2}x^2=\frac{3}{2}x^2-6x+k \quad \text{より} \quad x=\frac{k}{6}$$

したがって、求める面積を  $S$  とおくと

$$\begin{aligned} S &= \int_p^{\frac{k}{6}} \left\{ \frac{3}{2}x^2 - \left( 3px - \frac{3}{2}p^2 \right) \right\} dx \\ &\quad + \int_{\frac{k}{6}}^q \left\{ \left( \frac{3}{2}x^2 - 6x + k \right) - (3q-6)x + \frac{3}{2}q^2 - k \right\} dx \end{aligned}$$

$$= \int_p^{\frac{k}{6}} \frac{3}{2}(x-p)^2 dx + \int_{\frac{k}{6}}^q \frac{3}{2}(x-q)^2 dx$$

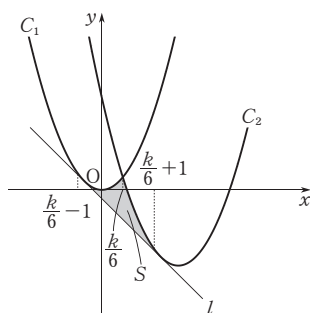
$$= \left[ \frac{1}{2}(x-p)^3 \right]_p^{\frac{k}{6}} + \left[ \frac{1}{2}(x-q)^3 \right]_{\frac{k}{6}}^q$$

$$= \frac{1}{2} \left( \frac{k}{6} - p \right)^3 - \frac{1}{2} \left( \frac{k}{6} - q \right)^3$$

ここで(3)より,  $\frac{k}{6}-p=1$ ,  $\frac{k}{6}-q=-1$  で

あるから

$$S = \frac{1}{2} \cdot 1^3 - \frac{1}{2} \cdot (-1)^3 = 1 \quad \cdots\cdots(\text{答})$$



---

**◀ 解 説 ▶**

---

**《接線の方程式, 面積》**

2つの放物線とその共通接線で囲まれた部分の面積を求める問題。(4)の面積計算をいかにうまく処理するかがポイントである。(3)の結果から,  $p$ ,  $q$  を消去して  $k$  のみで最初から計算するのではなく, 定積分の計算の後に  $p$ ,  $q$  を消去するのがよい。ここではさらに, 2次式の積分の際に

$$\int (x-a)^2 dx = \frac{1}{3}(x-a)^3 + C \quad (C: \text{積分定数})$$

が成り立つことを利用した。

問十五 第一段落五～七行目「横さんによる『漂うモダンズム』のなかで引用されている『日本語が亡びるとき 英語の世紀の中で』…を読み、『日本語の建築』ということについて、より思いを強くしています」、傍線部⑦の次の段落一・二行目「私がそんなことを考えるようになったのは、武満徹さんの『音、沈黙と測りあえるほどに』…という本を読んだことがきっかけです」、以上の部分は「自分と類似した見解を提示して」いるということができ、かつそれは自説の説得力を高めるための一助としているということが言える。②が適当。

問十六 ①「近い将来に『文学の終わり』が訪れる」が不適当。

②傍線部④の前文「ひらがなを日本人がつくったことによって空間の流動感が生まれたのは凄い」と異なる。不適当。  
③第一段落四・五行目「私自身はこのような空間を、『波紋』という言葉を使ってイメージしてきましたが、『波紋』とは余韻であり、それは、私たちが話す日本語に通じています」、(中略)の後の段落一・二行目「そういった空間が『日本庭園』をイメージさせます。それはまさに、日本語のなかでしか生まれない空間であり、建築ではないかと思えます」、この二箇所の内容に合致する。③が正解。

④傍線部⑧のある段落二・三行目「琵琶と尺八の音が、オーケストラに水の輪のように広がり、音が増えてゆく」というイメージから『water ring』というタイトルを思い付く」、同段落最後の文「日本的な感覚を、洋楽の形式のなかにうまく配置し」の内容と異なる。不適当。

⑤「理屈抜きに素晴らしいと思えること」については空欄dの前の段落で「音楽」「建築」について述べられているが、「文学」には言及していないので不適当。

⑥最終段落四・五行目「余韻や曖昧さを楽しみながら」以下の内容に合致する。⑥が正解。

⑦最終段落三・四行目「現代人であっても決して本能に基づく感覚を失っているわけではありません」と合致しない。不適当。



手がかりとなる。傍線部⑤の次の行に「日本庭園にははっきりとした道筋があるわけではなく、漠然とした空間」とある。つまり日本庭園の曖昧な特徴を指摘しているので、第五段落の要旨となるのは一行目の「日本語は、極めて曖昧な言語です」の部分となる。この内容と一致する①が適当。

問九 問八で指摘した傍線部⑤の次行の内容が日本庭園の特徴であり、その内容を端的に述べれば「曖昧」ということである。③が正解。

問十 傍線部⑥の段落一行目に「波紋」は、音にすれば「余韻」です」とあるように、「余韻」は日本庭園においては「波紋」にあたる。その前の段落一行目で「その点在するさまざまな場所と、その周りに広がる余白、そこには中心点から派生する波紋が広がっていく」と述べているので、この内容に一致する②が適当。

問十一 傍線部の直前に「そういう」があるので、指示内容を捉えていく。「そういうフラットなコミュニケーション」とは、その三行前の「その余韻を読み取らない、読み取ることができない若者」のコミュニケーションを指している。そうしたコミュニケーションが増えているということは、つまり余韻＝言外の意味を読み取る能力が低下しているということである。③が適当。

問十二 傍線部の次の行に「邦楽器の音がスーッと立ち上がってフワツとした余韻を残す」とあり、さらに次の行に「洋楽の形式のなかにうまく配置し、調和とも、対峙ともつかない方法で」とある。「余韻」と「残響」はほぼ同義であり、うまく配置され、調和とも対峙ともつかない状態は、併存の状態と言ってよい。④が適当。

問十三 「y」のイメージ」ということはその五行前の「水の輪」というイメージ」ということであり、「『水の輪』というイメージなら、波紋を意味する『ripple』がいい」と述べているので、「波紋」の①が適当。

問十四 傍線部の後に「トイレの位置は、だいたい柱の陰の方だなとアタリをつけて、適切にトイレに行くことができる」とあり、さらに次の段落の冒頭に「本来は人間も、何もない原野に置かれれば感覚だけを頼りに、動物と同じように歩くことができるはず」とある。以上の内容に一致する③が適当。

運命を手にしたのである」とあり、空欄の後の「英語は、永久に、ひたすら世界に拡張していく言語だ」はそれとほぼ同内容であるので、言い換えを導く接続詞「すなわち」が適当。④が正解。

b、空欄 a の第三段落と空欄 b の第四段落はそれぞれ英語の特徴を述べているので、並列関係を導く接続詞「また」が適当。③が正解。

c、空欄の前の「その意味を読み取っていく。それが日本語です」と、後の「その余韻を読み取らない、読み取ることでできない若者」が対抗関係になっているので、逆接の接続詞「ところが」が適当。①が正解。

d、空欄の前に「これも、建築に当てはまります」とあり、その後に建築における感性合意に基づく共有化の具体例が述べられているので、例示の副詞「たとえば」が適当。②が正解。

問四 第一段落二行目に「私自身、自分の空間感覚は日本の言語空間のなかで育まれてきたと考えています」とあり、この内容と因果関係が成り立つので③が適当。

問五 引用文の内容を言い換えているのが第三段落一行目の「英語は、永久に、ひたすら世界に拡張していく言語だ」ということであり、それは英語が〈流通価値〉を持っていることを意味する。傍線部②は英語を彷彿とさせるものなので、〈流通価値〉が重んじられたものだと言える。①が適当。

問六 英語の特徴は、一つには傍線部②の次の文の「国や地域ごとの特殊性を失わせてもいく」ものであり、もう一つは空欄 b から始まる文の「物事の良し悪し、イエスカノーかを明確にしてい」くものでもある。この二点を筆者は「フラット（＝平面的）につないでいく」ものとしており、これらを簡潔に述べている②が適当。

問七 傍線部の直前に「ですから」とあるので、その前文に着目すると、「ひらがなを日本人がつくったことによって空間の流動感が生まれたのは凄いとしか言いようがありません」と述べている。よって、「空間感覚」に触れている④が適当。

問八 段落冒頭に置かれる指示語は、前段落の要旨を指すことが多い。また、指示内容を特定するためには後文の内容も

2

出典

伊東豊雄『日本語の建築——空間にひらがなの流動感を生む』／第五章「日本語」という空間から考える  
 る▽（P H P 新書）

解答

問一

(1) ③

(2) ①

(3) ④

(4) ③

(5) ①

(6) ②

(7) ④

(8) ③

(9) ①

(10) ④

(11) ③

(12) ④

a ④

b ③

c ①

d ②

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問三

問二

(ア) ②

(イ) ③

(ウ) ①

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問四

問三

(ア) ②

(イ) ③

(ウ) ①

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問五

問四

(ア) ②

(イ) ③

(ウ) ①

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問六

問五

(ア) ②

(イ) ③

(ウ) ①

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問七

問六

(ア) ②

(イ) ③

(ウ) ①

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問八

問七

(ア) ②

(イ) ③

(ウ) ①

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問九

問八

(ア) ②

(イ) ③

(ウ) ①

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問十

問九

(ア) ②

(イ) ③

(ウ) ①

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問十一

問十

(ア) ②

(イ) ③

(ウ) ①

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問十二

問十一

(ア) ②

(イ) ③

(ウ) ①

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問十三

問十二

(ア) ②

(イ) ③

(ウ) ①

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問十四

問十三

(ア) ②

(イ) ③

(ウ) ①

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問十五

問十四

(ア) ②

(イ) ③

(ウ) ①

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問十六

問十五

(ア) ②

(イ) ③

(ウ) ①

(エ) ④

(オ) ④

(カ) ③

(キ) ①

(ク) ④

(ケ) ③

(コ) ①

(サ) ④

(シ) ③

問三 a、第二段落の

『日本語が亡びるとき』の引用の中に「英語はその〈普遍語〉としての地位をほぼ永続的に保てる

▲解

説▼

以外に「ばかり」の訳になっているものではなく、文意にも適っていることから①が適当。

問十四 傍線部の意味は、〃後鳥羽上皇はこのことを〃 お知りになるのが大事だ〃 ということである。このこととは前の行の「これは將軍が」以下の文を指している。そこを訳すと、〃ここでは將軍が内外に（政務を）誤っていないようなときに、理由もなく（上皇が將軍を）お憎みになるようなことはよろしくないということを〃となる。この内容と合致する④が正解。

問十五 文法的には反実仮想の形「未然形＋ば、ゝまし」（〃もしゝならば、ゝだるうに）になっているので、まずは②・③に絞ることができる。傍線部を訳すと、〃もし神仏がものをおっしゃる世の中であるならば、（神仏に）問い申し上げただるうに〃となる。解釈としてこの内容に合致するのは③であり、これが正解。

問十六 ①・②・③は内容として本文中に根拠はないので消すことができる。④は本文中との照合が少々面倒である。まず、最終段落一文目で「こは、ゝゝものかな」（〃これはどうも、とんでもないことを、書きつけてしまいましたこと）と言っているので、後鳥羽上皇を批判して恐れ多いことを述べてしまったということと言える。次に、傍線部⑨の前文で「『ひしとゝ侍るなり』（〃「たしかにこれは神々のおはからいがあつて、このようになったことだよ」と、明らかに理解できるのだから、心して（このことをよく注意なさり）神々（「冥衆」）のおはからいによつて定められた理に適うように、お思いになつて取りはからい、世をお治めになるべきでございます）」と述べており、これは自分の意見が「冥衆」の意向に沿つたもので、「冥衆」に代わつて自分が忠告するのだという物言いと言える。また、〃お思いになつて取りはからい〃というのは、〃どうかお考えくださつて〃ということを言っているので、「理解を求めている」と言える。④が適当。

問十七 『吾妻鏡』は歴史書であつて、歴史物語ではない。④が正解。

上下の言葉が主語述語関係になっているので主格用法であり、がと訳さなければならない。よって、④が正解。

問七 傍線部を直訳するならば、えてして帝がこれ(『文武兼行の撰録の状態)を憎もうというお心が出てきたならばとなる。そうすると②がよさそうな印象を受けるが、②は「憎からず」(憎くはない)と言っているので、「憎まむ」とは逆のことになるため、不可となる。文意に最も一致するのは④であり、これが適当。

問八 帝に文武兼行の撰録を憎むお心が出てきたならば、「日本国の運命の極まりになりぬ」、つまり日本国の運命もおしまいだと言っている。これは嘆くべきことなので、文意に適う③の「かなしき」が適当。

問九 傍線部の訳は「侮りがたいように思われるであろう」である。ここは問題として難解である。というのも理由箇所である上の部分の「ただ少しほをごはにて」の、「ほをごは」に注がなく、意味がとりにくいからである。しかし、本文の内容から考えてみると、撰録臣は謀叛を企てることはなく、第五段落一行目に「文武兼行の撰録」とあるように、文武両道の者である。この内容に合致する①が正解。なお、「ほをごは」とは「ほうごは(報強)」で、運が強いことをいう。

問十 副助詞「だに」は①類推(〜サエ・〜スラ)と②最小限(セメテ〜ダケデモ)の二つの用法がある。傍線部は「百王までをだに」ということで、ここは「帝王百代まで(続くのを)さへ」と解釈するのが適当。「待ちつく」は「待ち受ける」の意。「待ちつけず」と打消になっているので、「待ち受けない」つまり百代を迎えることはないということだから、③が正解。

問十一 係助詞「こそ」があるので、係り結びとして文末は已然形となり、①と②に絞られる。「冥衆はおはしまさぬにこそ」とは、「目に見えない神々などはいらっしゃらないだろう」という意味であり、文意から②が正解。

問十二 ここは語意から考える。「人の」の「の」は主格の格助詞でがと訳す。「はからふ(計らふ)」は、取り計らう・考慮する・分別するの意。この二点で絞り、文意も踏まえると②が適当。

問十三 副助詞「ばかり」の用法は主として、①程度(〜ホド・〜グライ)、②限定(〜ダケ)である。選択肢の中で①

問十五 ③

問十六 ④

問十七 ④

## ▲解 説▼

問一 「漢家」とは中国の王朝のことであり、器量の勝る者がうち勝って王となるのが中国の王朝の歴史だった。王朝の交代は「易姓革命」と言われる。これは、天子は天命によって決まり、天子に徳がなくなれば、天命は他の人物に下るという考えであり、王室の姓が易<sup>か</sup>わることからこうした名で言われている。①が正解。

問二 「このやう」とは「この日本国は、…今日まで違はず」を指している。「王胤」とは王の子孫のことで、日本の天皇は血筋が他に移ることはないことを述べている。また臣下の家系は、臣下の立場として定まっていることを述べている。④が正解。

問三 言っていることは、〈宗廟社稷の神が、文武兼行の執政を作り出して差し上げた〉ということである。文法的に考えると、「ぬる」は完了の助動詞「ぬ」の連体形であるので③と④に絞られ、「神の」の「の」は格助詞の主格用法なので④に絞られる。「参らせ」は謙譲の動詞「参らす」の未然形、「られ」は尊敬の助動詞「らる」の連用形で、訳としては、差し上げられた<sup>た</sup>となるが、ここは神が人間に遣わしたと解釈できる。④が正解。

問四 空欄の前の「世を知ろしめす君」とは天皇のこと。空欄の二行前の「臣の君を立つる道」とは、臣下が天皇を即位させたあり方ということであり、臣下の意志によってそのようにしたということは、臣下が君を改めたということになる。④が正解。

問五 第四段落では臣下が立てた複数の天皇が挙げられているので、「この君」は「昭宣公の…」以降に挙げられた「これら」の君である。この中に「後白河院（後白河上皇）」は挙げられていない。①が正解。

問六 ポイントは格助詞「の」。「臣下の君を立て参らせしなり」（「臣下が君をお立て申し上げたのである」）の「の」は、

- 問十四 ④  
問十三 ①  
問十二 ②  
問十一 ②  
問十 ③  
問九 ①  
問八 ③  
問七 ④  
問六 ④  
問五 ①  
問四 ④  
問三 ④

**解答**

**1**

- 問二 ④  
問一 ①

**出典**

慈円『愚管抄』〈巻第七〉



国語